

日々の保守管理

車両や施設、軌道、設備などについて、計画的な保守管理を行うことで、日々の鉄道の安全運行を支えています。

11 住み続けられるまちづくりを



車両

列車を安全に運行するために定期検査を行っています。日常的な検査は検車区（京王線は若葉台・高幡不動、井の頭線は富士見ヶ丘）で実施し、大規模な検査と修理は若葉台工場で行っています。

▶ 若葉台工場

4年または走行距離が60万kmを超えない期間に行う「重要部検査」、8年を超えない期間に行う「全般検査」のほか、大規模な修理やリニューアル工事を行っています。



車体吊り上げ



台車検査ライン



8000系リニューアル工事

▶ 検車区

10日を超えない期間に行う「列車検査」や、3カ月を超えない期間に行う「月検査」のほか、臨時の小規模な修理や車両の清掃を行っています。また、若葉台検車区では床下型車輪旋盤装置による車輪の削正を実施し、静かで乗り心地の良い車両を維持しています。



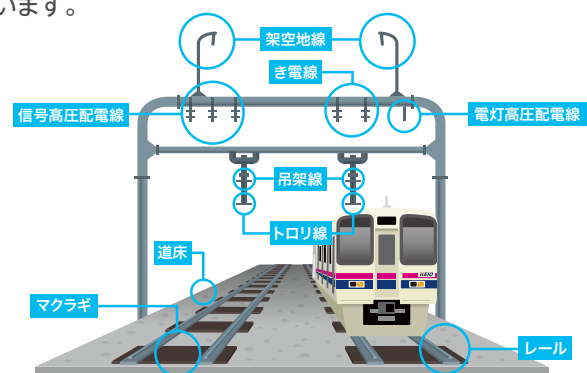
ドアの点検



車輪の削正

架線（吊架線、トオリ線）

総合高速検測車や目視により外観に異常がないか点検をしているほか、終電後には、測定器などを用いた点検や架線の高さの調整、各種設備の交換などを行っています。



総合高速検測車

実際の列車と同じ速度で走行しながら、架線と軌道の状況を同時に検測することができる総合高速検測車を京王線に導入しています。検測で得られたデータを保守計画に反映し、安全性・乗り心地の向上を図っています。



総合高速検測車



総合高速検測車車内

構造物

高架橋・トンネル・橋梁・擁壁などの構造物については、定期的に目視検査や打音検査を実施するとともに、必要に応じて補修工事を実施しています。



トンネル天井部の点検

軌道

日中に総合高速検測車や測定機器を用いたさまざまな点検を行い、終電後には点検結果に基づき、軌道のゆがみの整正や各種部品の交換などを行っています。京王線の道床つき固めにはマルチプルタイタンパーという大型の作業車を使用しています。



マルチプルタイタンパー



道床のつき固め

VOICE

工務部 施設管理所 土木担当
技術員

藤田 駿

施設管理所では、軌道・土木・建築という様々な観点から鉄道施設物の維持管理を行い、安全運行を支えています。

安全運行を達成するためには日々の積み重ねが重要と考えており、いかなる状況においても維持管理業務を迅速・確実・適正に実施していくことで、現場の最前線から安全運行を支えてまいります。